

が始まる

訓練終了後、地下約八百メートルの黒ダイヤ、石炭の採掘作業が始まる

以降、四年七月、一度も暮舎の移動なし

昭和二十五年二月十日

復員のためナホトカ港に集結

〃 二十五日

高砂丸にて舞鶴港に上陸

〃 二十八日

恵那市大井町に帰宅

職 歴

昭和二十六年十二月一日

恵那市大井町佐渡 中央板紙株式会社に就職

昭和四十六年三月三十一日 定年退職

昭和四十六年四月一日

恵那高原開発株式会社に就職

昭和五十六年三月三十日 定年退職

抑留中、軍歴の発覚することもなく、移動もなく、病気にもならず、無事帰国できたことを感謝

している。しかし、私たちの労苦が何も生かされていない現状を腹立たしいと思っている。失われてしまった国家に対する忠誠心を少しでも取り戻してほしいと、今はそれだけを願っている。

抑留記

岐阜県 松岡道正

生年月日 大正十二（一九二三）年七月十日

本 籍 岐阜県恵那市長島町永田

軍 歴

昭和十九（一九四四）年一月十日、現役兵で渡満のため広島に集結し編成され、電信一八連隊に入隊する。二、三日で博多港より釜山港へ夜間渡る。貨物船の大きいもので各兵科渡満する。現役兵全部、兵器、馬等積めるだけ乗船する。また朝鮮半島は素通りで満州国の北満、龍江省上爾池哈にある電信一八連隊勇隊二班に通信兵として入隊

する。その後六カ月教育後、下士候補者として奉天（瀋陽）市にある五四九部隊に教育のため転属する。昭和二十年六月ごろ原隊復帰後、満州里の通信分隊の警備に当たる。国境警備隊に入る。八月十五日に終戦になりチチハルの鉄道部隊内で武装解除。

抑留歴

昭和二十年八月終戦にてシベリア抑留待機のため、牡丹江貨物兵舎に集結する。約一万人。

昭和二十年十月半ば、上下二段の有蓋貨車で一両約六十人ほど積み込まれ、ひたすら北を目指して、夜、猛スピードで走る。約三十車両連結で、昼間は駅の待機線に入り休憩（赤軍監視の上、外は雪景色）。

着いた所はテルマ○○で、流刑地の丸太組み合わせの建物で、電気もなく、囚人の入るところに入れられた。約一年ほどは伐採搬出の作業。朝八時〜五時まで、ノルマーで働かされる。

シベリア鉄道増設にてバラスおろし約三カ月、

これは大変きつい作業であった。

収容所三カ所ほど移転する。洗脳教育は、共産主義が正しい、早く赤になれば早くダモイされるようにアクチーブ（リーダー）が話をする等、毎日のように洗脳教育が行われた。

食事も米食から黒パン、スープに変わったけれど、食べ過ぎ、生水に気をつけダモイの来る日待ち続け、昭和二十四年十月、帰還船「高砂丸」で舞鶴港へ、上陸。厳しい消毒検査の上入国。岐阜県援護局出迎えあり。

職歴

昭和十三年四月

名古屋市熱田区の大同製鋼株式会社に入社

昭和十八年十二月 同社を入営のため退社

昭和二十四年十月

恵那市大井町佐渡 中央板紙株式会社入社

昭和五十五年七月 同社定年退職

昭和五十七年四月

恵那市大井町恵那峡山菜園就職

昭和六十三年十二月 同園退職

抑留記

岐阜県 木村 誠 二

生年月日 大正十二（一九二三）年四月二十八日

本籍 岐阜県恵那市長島町永田

軍歴

昭和十九（一九四四）年一月十日 電信一八連

隊入営

〃 一月十五日 八幡港出帆

〃 一月十九日 龍江省上爾池哈着

〃 〃 電信一八連隊（満州七

五八八部隊）

昭和二十四年七月四日 除隊

抑留歴

昭和二十年八月二十三日 哈爾浜において武装

解除

〃 八月二十八日 海林作業大隊に編入

〃 十月十日 海林出發

〃 十月十八日 ソ連シベリア

昭和二十四年六月三十日 ナホトカ港出帆

〃 七月三日 舞鶴港上陸

〃 七月四日 復員

抑留中は衛生兵としての経験を生かして病院勤務を命ぜられた。医薬品は満州より持つて行ったので何とか必要最少限度であった。日本の軍医が同所におられたため、治療はスムーズに行われた。

ノルマは厳しく、決して脱落者を出すなという命令であった。

それでも作業は大変で犠牲者は出た。そのときは裸で外に放り出し、日本では考えられないことが行われた。

職歴

昭和二十四年十月一日 長島町役場職員に採用

昭和二十七年十二月二十七日 岐阜県職員に採

用